

科目名	花 卉 生 産 学	教員名	もり しろ 志郎	開 講 コース	作物生産 花 園 芸	2 年次	前 期
<p>・ 目的と内容</p> <p>花きの「き(卉)」は草を意味し、「花き」とは花の咲く草を意味する。花きは農業総産出額の約6%を占める農業の重要な一分野であり、心の豊かさやゆとりが重視される社会にあっては今後もその需要の拡大が期待されている。花きは観賞用作物であることから嗜好性が強く、種類・品種がきわめて多い。また、品質に対する要求が高いため、資本と労働を投入し、高度な技術も活用して良質の生産物を作らなくてはならない。さらに、流通の変化に対応した経営が求められる。</p> <p>本講義では、このような花き生産の特徴を踏まえ、花きの生産、流通、消費について整理する。また、我が国で流通する主な切り花、鉢物、花壇用苗物の種類や特徴、生産技術を紹介して花き生産の実践に役立てる。</p>							
<p>・ 授業計画 [単位数：2 単位、授業週数：15 回]</p> <p>[前期]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 花きと花き園芸 2. 花きの分類 (自然分類と人為分類) 3. 花きの育種と繁殖 4. 花きの生理 (植物の生活環) 5. 一・二年草の生理生態的特徴と栽培管理 (1) 6. 一・二年草の生理生態的特徴と栽培管理 (2) 7. 宿根草の生理生態的特徴と栽培管理 8. 球根植物、花木の生理生態的特徴と栽培管理 9. 温室植物、観葉植物の生理生態的特徴と栽培管理 10. ラン類、サボテン・多肉植物の生理生態的特徴と栽培管理 11. 花き生産に用いられる施設と資材 12. 環境にやさしい花き生産 (土壌管理と病虫害・雑草管理) 13. 花きのもつ機能 (花の形、色彩、香り) 14. 花き生産の現状と今後 (生産、消費の動向) 15. まとめ 							
<p>・ 講義の進め方</p> <p>授業計画に沿って教科書および参考資料を利用して講義する。</p>							
<p>・ 試験と成績評価</p> <p>出席数、講義中の態度および試験などにより評価する。</p>							
<p>・ 担当教員から受講生諸君へ</p> <p>講義は身近な植物を例に挙げてそれらの特徴などについて紹介します。日頃から日常生活や地域にある植物に目を配り、たくさんのお花を覚えるように努めましょう。</p>							
<p>・ 使用教材</p> <p>教科書：樋口春三編著「新版 草花栽培の基礎」(農文協)</p> <p>参考書：長岡求著「色と咲く順でわかる花の名前事典」(永岡書店) 今西英雄著「花卉園芸学」(川島書店) 樋口春三著「観賞園芸」(全国農業改良普及支援協会)</p>							